

# 1. びんリユースの現状

## リユースびんは環境に優しい容器

「リユース」とは、一度使ったものを繰り返し使うことを意味しますが、リユースを製造・流通・販売・回収まで身近な社会的な仕組みとして実現しているのが、ガラスびんのリユースです。

リユースびんは、回収、詰め替えをすることによって、何度もくり返し再使用できる容器です。回収されたびんは、洗浄・殺菌を経て再び中身が詰められ、くり返し使われますので、廃棄物にならず、ガラスびん原料や製造エネルギーの節約にもなるので、環境に優しい容器として評価されています。

ガラスびんには、100年以上も前からリユースの仕組みがあり、ビールびん、一升びん、牛乳びんなどが、リターナブルびんとしてくり返し使われてきました。消費者のライフスタイルの変化や流通の変化で、くり返し使われないびんが増えていますが、リターナブルびんは、条件を整えば環境にやさしい容器として、その長所が見直されています。

リターナブルびんが、くり返して使われるためには、きちんと返却されることが大切です。生協や宅配牛乳のように、商品配達時にあきびんを回収しているところもありますが、買ったところに戻すことが基本です。ビールびんは、あきびんを販売店に戻すと保証金が返ってくる「容器保証制度」があり、これにより、ほぼ100%近くが回収され、再使用されますが、一部の自治体では、あきびんの品質を維持した状態で回収し、その中からリターナブルびんを選別し、再使用につなげているケースもあります。

## リターナブルびん情報をサイトで公開

ガラスびんリサイクル促進協議会では、事業者が行っているリターナブルびんの取組みを「見える化」し、リユースに熱心に取組んでいる消費者団体など

に、有効な情報源となることを目指し、リターナブルびんに関する様々な情報を、ポータルサイトで公開しています。その内容は、各事業者が扱っているリターナブルびんを使用した商品の紹介を始め、NPO他の団体や事業者の取組み事例、数値データなどを掲載して、順次、更新しています。



<http://www.returnable-navi.com>

## リユースびん使用量は30年連続減少

しかし、わたしたちを取り巻く飲料食品容器は、1970年代ころから、スチール缶やアルミ缶、PETボトル、紙パックやレトルトパウチなど次々と新しい容器が開発され、中身商品の多様化とともに小容量で軽量のワンウェイの容器が増えてきました。

なかでもPETボトルは、透明で中身が見えるというガラスびんの特性を持ちながら、軽量で割れないという長所があり、非常な勢いで普及してきました。

そのような中で、国内のリユースびんの使用量は30年間連続で減少し、平成21年推計では、本数ベースでは約34億本、全容器744億本の約4.6%まで減少しています。国内のびん使用量に占めるリユースびんの比率も、平成11年の63.5%から平成21年には48.7%と減少傾向にあります。

ガラスびんのリユースには欠かせない「びん詰めライン」や「洗びん設備」の維持が難しくなっており、リユースびんは存続が危ぶまれる状況にあるとも言われています。